

授業づくり (P)

◇単元について

教科等	国語科	対象学年等	小学部1グループ (3年1名、4年2名、5年2名、6年2名)
単元名	ミッションをクリアしよう		
単元目標【観点】A	① 正しい姿勢で音読する。【知識及び技能】特小3ア(カ) ② 易しい読み物を読み、登場人物の行動や場面の様子などを想像する。【思考力、判断力、表現力等】特小3読むことア ③ 言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】特小3		
単元設定の理由 (教材観)	「読むこと」の学習では、これまで「構造と内容の把握」の指導事項を中心に、動作化・劇遊びを通して学習してきており、動作化・劇遊びの活動を通して、絵本の内容を体験的に習得したり、主体的に表出しようとしたりする姿が見られた。一方で、在籍児童の発達段階上、自他意識が未発達なことから、役を演じることが難しかったり、絵本等の読み物は叙述が長く、音読したり、内容を十分に把握することが難しい様子も見られた。 本単元「ミッションをクリアしよう」は、各児童がミッションカードを読み、書かれた内容を動作化するという活動である。ミッションカードの文章を3語文程度にすることで、無理なく音読したり、内容を把握したりできるようになっている。また、ミッションカードの主語を児童本人にすることで、役を演じることの難しさが解消され、児童の動作化による表出が、より文に沿ったものになると考える。		
授業充実の視点 (学習・指導方法) B	主	① ミッションカードの文章量を児童の実態に合ったものにするので、自ら進んで音読できるようにする。 ② ミッションを動作化するきっかけとして、音楽を鳴らすことで、児童が自ら始めるきっかけをもてるよう環境設定を行う。	
	対	① ミッションカードの内容を同一のものにするので、カードを読んだ後迷いが生じて、友達の動作化からヒントを得て、文を動作化できるようにする。	
	深	① 1人1セットミッションカードを用意することで、自分のペースでミッションカードを音読し、各児童が内容を把握できるまで、自由に何度も読めるようにする。 ② ミッションカードの内容を動作化することで、言葉や文の意味をより正しく理解できるようにする。	

単元計画			評価計画			
次 (配時)	ねらい	学習活動	知	思	主	評価方法
1 (1.5)	3語文程度の文を音読し、動作化しようとする。	・ミッションカードを音読し、動作化する。	①	②		行動の観察(音読、体の動かし方)

2 (1)	3～5語文程度の文を音読し、動作化しようとする。	・ミッションカードを音読し、動作化する。	①	②	③	
----------	--------------------------	----------------------	---	---	---	--

◇小学校との学びの連続性を確保するにあたって

本単元で参考とした題材	かたかなをよもう(特☆3)、おじいさんとねずみのおはなし(特☆3)
小一特の比較・分析 (内容・指導方法など)	<p>小学校国語科の「読むこと」では、叙述を基に登場人物の行動を想像することが指導事項となっており、小学校国語科への接続を考える上で、叙述に注目し、叙述を読んだり、叙述から内容を把握したりする学習を取り入れる必要がある。</p> <p>本単元では、叙述に注目するための指導として、音読を取り入れることとした。音読について、小学校学習指導要領と特別支援学校学習指導要領で共通して指導事項に示されており、小学校学習指導要領では全学年で指導事項として取り上げられている。小1・2学年の知識及び技能の指導事項では、「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」とされており、小学部3段階の知識及び技能の指導事項では、「正しい姿勢で音読すること」とされている。このことから、小学校との接続を考える上で、叙述に含まれる言葉に注目する指導として音読は重要であると考えた。</p> <p>在籍児童の実態として、実態の差に応じて支援は必要であるものの、3～5語文程度の短い文章であれば、読むことができている。一方で、叙述に着目することが少ない様子も見られ、叙述を自ら読む経験や、叙述を読む必要性のある教材の設定を行う必要がある。</p>
小学校の指導事項を取り上げる(接続する)にあたっての手だて \square C	<p>① 音読場面では、実態に応じて、文章量を3～5語文程度と短くし、音読時間を長めに設定した。また、読む箇所を教師が指で指し示すようにした。</p> <p>② 文への着目を促すため、「ミッションをクリアする」という設定を設ける。文を読まないと言動化できないという状況を作り出すことで、文を読む必然性が生まれ、叙述への着目につなげるきっかけになるのではないかと考える。</p> <p>③ 本校は1コマ40分で授業を行っているが、本単元は1コマ20分で行っている。これは、小学校への接続を念頭に入門期教育の考え方を参考にしたためであり、児童の発達段階を考慮し、より集中して学習に臨めるよう、20分以内の学習活動を2つ組み合わせることで行った。</p>

授業 (D)

※学習指導案等参照 (研究授業等のみ)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			総時数
		話す・聞く	書く	読む	
実施時数	2.5 ●			● 2.5	2.5
小学校における指導時数					

※1単位時間に満たない時数の場合は「*」で表記する。

学習評価 (C)

◇評価規準 【A欄に対応】

知識・技能	正しい姿勢で音読している。
思考・判断・表現	「読むこと」において、易しい読み物を読み、登場人物の行動や場面の様子などを想像している。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとしている。

◇児童生徒の学習状況

【A:「十分満足できる」状況 B:「おおむね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況】

観点 児童生徒	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B
	B	B	B

※Aの場合は特に優れている点、Cの場合はBを実現するために教師が行った指導を記述する。

指導評価 (C)

◇実践の分析・考察 【B欄に対応】

【指導評価】◎:十分に有効 ○:概ね有効 △:課題が見られる ×:要改善

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
① ◎ ② ○	① △	① ◎ ② ○

※△・×の場合は「改善 (A)」欄に改善策を記述する。

◇小学校の指導事項を取り上げる（接続する）にあたっての手だての評価 【C欄に対応】

成果	課題
① 文を短くする、時間を長めに設定する、指で指し示す等の手立ては、初めて音読という学習に取り組む児童にとって、無理なく進んで取り組める有効な手だてだった。 ② ミッションを動作化するという、明確な目標を設けることで、自然に文に注目する姿が見られた。 ③ 20分にすることで、集中した状態を持続しながら活動に取り組むことができていた。	② ミッションカードの内容が全員同じ内容であったため、動作化の際に友達の動きを見て動作化する児童もいた。叙述から内容を把握するという観点で考えると、叙述以外の部分からヒントを得ていた児童もいたと考えられる。

改善 (A)

・ミッションカードの内容をそれぞれ変え、叙述から内容把握できているかを確実に評価できるようにする。

